

「水戸借楽園の開園目的について」

永 嶋 正 信（東京農業大学）

摘 要

小石川後楽園は水戸家二代の光圀が相続した1661（寛文元）年から隠居する1690（元禄3）年までの約30年間庭園は整備され、一般に公開したといわれている。水戸借楽園はその後約150年経過して徳川斉昭が計画し、1842（天保13）年7月竣工開園した。その年から現在まで約150年が経過した。

借楽園の開園とその目的については、藩の先進的優位性を高めるとともに、人々の健全なレクリエーションの必要性を説き、更に孟子の教えの実践によって人心を収攬しつつ、一旦有事の際の城からの避難場所の確保を図ったものであると思料される。

はじめに

水戸借楽園は、1833（天保4）年頃から藩主烈公德川斉昭公が遊園の設立を計画したといわれ、1841（天保12）年4月、建設に着手、1842（天保13）年7月竣工開園した。その後1873（明治6）年12月常磐公園と称し、41,949坪（138,432㎡）が一般開放となる。

研究目的及び方法

徳川斉昭公は衆と楽しみを同じくする意図で計画し命名された借楽園、その公開に当って管理方法はどのようであったか、1842（天保13）年7月1日付で諸向へ布達された入園者心得、借楽園記（碑文）等からその意味するところ、目的について考察しようとするものである。

利用規定 入園者心得一般事項 （碑の禁条）

- 1) 入園時刻は午前6時から午後10時まで、月3と8の日（註月6回）にお庭拝見が許される。家内は毎月13、28日に入園できる。（註2回おき月2回）老人の人々の保養は勿論、公務や文武修業の者以外には入園し楽しむことは自由である。しかし場所柄をわきまえ、無作法にならないよう心掛けることが必要である。
- 2) 寺社に携わる人が詩歌、音楽、書画、茶道のため入園してよい。尼僧は女子拝見の日に入園してよろしい。
- 3) 月見のため7月15日、9月15日は男子に、8月15日は女子に夜間開園を特に認める。
- 4) 徳川斉昭公が水戸に居られるときでも入園してよろしい。

以上のことを心得て利用すること。

細則では「魚釣りや船の利用」「月見と夜間の利用」「男女の別と同伴者」「園内建物の利用」「酒の持込」「入園者の服装」「他藩の者の扱い」などを決めていた。

以上男女の別を正しくすること。雑踏を以て威儀を乱すことを許さず、深酔の上乱暴や俗悪におちいることも禁じられる。園中の梅枝を折り、梅実を採ってはならない、園中健康な者はかごに乗ることを認めない、漁獵は禁止であって守らない者は断るという骨子であった。

考 察

ただ休息するだけの目的にとどまらず、領内の人々が、悠々と楽しみ、遊び、心身を養うことは、より働き、徳を修め、業を勤めるための休養である。園内を逍遥し、詩歌を作り唱え（吟じ）合ったり、楽器を奏でたり、文字を書き精神を集中したり、野立てに興じ、携えたふくべで花見酒を楽しみ、釣りによって、日常の張りつめた緊張をゆるめ、これらを通して休養すること、これが余（烈公・徳川斉昭）と衆と楽しみを同じくする意図であると強調している。以上はこの時代の正しいレクリエーションの必要性と目的を明らかにしている。

偕楽園は管理に当って細かい規定をつくり制限公開していたが徳川斉昭の本志を整理すると以下のように推察することができる。

1. 前年に藩校の弘道館を建て、文武修練の奨励をしたが、これに対して浩然の気風を養わせるいわゆる当時のレクリエーション利用を目的としていた。
2. 城中の人々の気分を和らげまた一旦緩急の場合、立ち退き避難場所の役目を果す空間が必要であった。
3. 梅を植栽したのは、開花が早く、果実の用途が広く、観賞、実用共にすぐれ、保存食料としての価値が高いため。
4. 「君は船、臣は水、水よく船をうかべ、水よく船をくつがえすという譬も候間」（桃源遺事）、孟子の教えとして「万坪の園も民と偕に楽しめば広いというそしりを受けないが100坪の地も民人の立入りを禁じたら民はこれに苦しむ」ということがある。従って期間方法等を限っても偕に利用するといえは人民の反発は和らぐのであるということを実践した。
5. 江戸小石川後楽園は初代藩主頼房が領地を江戸上屋敷として拝領した1661（寛文元）年から1690（元禄3）年まで約30年間大いに庭園が整備され、1700（元禄13）年光圀が死歿するまで一般公開されていた記録があり（桃源遺事）、これが斉昭に影響を与え、水戸偕楽園として同様の主旨で開園された。

むすび

以上から本来の目的は、藩の先進的優位性を高めるとともに孟子の教えの実践によって人心の収攬を前面に出しつつ、一旦有事の際、城からの避難用地の確保を図ったものと思料される。

引用又は参考文献

1. 茨城常磐公園攬勝図誌 乾、坤（上・下巻） 明治18年12月2日出版、編集 松平俊雄著、影印版昭和51年12月1日刊 崙書房発行
2. 「水戸の心」梅と歴史に薫る 関 孤円著 昭和61年2月15日発行、憐川又書店発行
3. 小石川後楽園 吉川 需著 1981年8月1日発行、憐郷学舎発行
4. 桃源遺事 昭 徳川公爵家蔵版 昭和10年5月6日発行
5. 小石川後楽園紀 文部省「名勝調査報告」 大正11年測量、陸軍造兵廠（代謄写）